

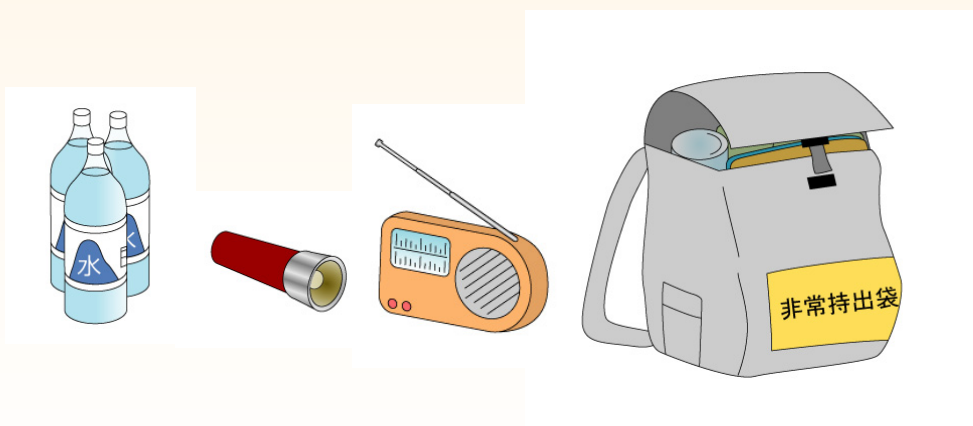
# 高館地区

## 防災マニュアル

「地域ぐるみの防災体制」

～自分たちの地域は自分たちで守る～

ひもを通して目立つところにおきましょう  
家族で定期的に確認しましょう



名取市・高館地区

## 目 次

1. はじめに-----	P 1
2. 高館地区について-----	P 1
3. 過去の災害と教訓について-----	P 2
4. 高館地区の災害対応計画-----	P 3
5. 高館地区の災害予防計画-----	P 8
6. 避難所の開設・運営への協力について-----	P 1 0
7. 高館地区防災マップ-----	P 1 1
8. 平成 25～27 年の災害と教訓-----	P 1 3
9. 我が家の防災メモ-----	P 1 4

高館地区の避難場所など

# 1 はじめに

名取市では、東日本大震災の教訓や豪雨災害の経験を踏まえ、平成 25 年 12 月に自分の命は自分で守ることを基本とした防災・減災への取り組みを示した「名取市民防災マニュアル」を作成し、全世帯に配布しましたが、大規模災害による被害を軽減するためには、地域の実情に応じた防災対策を、名取市と地域の皆さんが一体となって実施していくことが重要です。

このマニュアルは、名取市が地域の皆さん（区長さん、町内会長さんなど）と一緒に作成したもので、高館地区で想定する災害やその対応方法などを示したものです。

## 2 高館地区について

### 地形・地勢

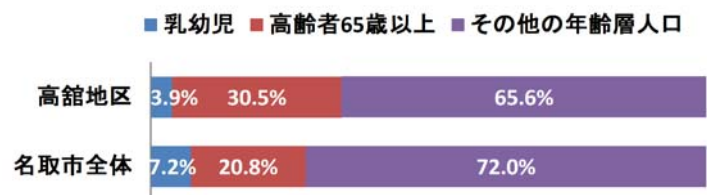
- 高館地区は、市の北西部に位置し、高館山を中心として文化財が集中する地域で、熊野三社（熊野本宮社、新宮社、那智神社）があります。
- 南北に約 4.8km、東西に約 6.5km、面積が約 9.6km<sup>2</sup>、標高は 5～80m 程度です。
- 北に名取川、南に樽水ダムがあり増田川が流れています。
- 丘陵地帯が多く、土砂災害の危険箇所があります。



### 世帯・人口

- 高館地区は、1,377 世帯、3,950 人が住んでいます。
- 名取市全体と比較すると、高齢者の割合が多いので、災害時には積極的な声掛けを行いましょう。

高館地区の年齢層別人口



高館地区の世帯・人口

地区名	世帯数	人口	乳幼児	高齢者65歳以上	その他年齢層人口
高館地区	1,377	3,950	154	1,204	2,592
名取市全体	29,146	77,072	5,559	15,995	55,518

平成 28 年 1 月末現在

災害名称及び 災害発生日	災害による被害状況と <b>当時の状況</b>
<b>宮城県沖地震</b> 昭和 53 年 6 月 12 日 <b>(仙台市で震度 5)</b>	ブロック塀の倒壊などによる死者、建物被害による多くの負傷者が発生し、都市ガスなどライフラインが停止しました。 名取市では、負傷者 200 人、全壊 17 棟、半壊 61 棟、一部損壊 1,623 棟の被害がありました。
<b>8・5 豪雨</b> 昭和 61 年 8 月 5 日 <b>(累計雨量 400 ミリ)</b>	台風 10 号の進路に、海上から多量の水分を含む東風が吹き込んだことにより、宮城県で記録的な豪雨となりました。 <b>高館地区では一部損壊 2 棟、床上浸水 4 世帯、床下浸水 43 世帯の被害がありました。</b>
<b>9・22 集中豪雨</b> 平成 6 年 9 月 22 日 <b>(時間雨量 84 ミリ、 累計雨量 478 ミリ)</b>	短時間に多量の雨を降らせ、予測することが難しい集中豪雨で、樽水ダムが満水になり増田川がはん濫しました。 <b>高館地区では、全壊 2 棟、床上浸水 53 棟、床下浸水 153 棟の被害のほか、県道名取村田線などで崖崩れや道路の損壊が発生しました。また、樽水地区が孤立し、自衛隊がボートによる救助を行いました。</b>
<b>東日本大震災</b> 平成 23 年 3 月 11 日 <b>(名取市で震度 6 強)</b>	マグニチュード 9.0 の巨大地震により、強い揺れが約 3 分間継続し、巨大津波により市内で 911 人が犠牲になりました。 4 月 7 日の深夜には、名取市で震度 6 弱の余震も発生しました。 <b>高館地区では、大きな建物被害はほとんどありませんでしたが、屋根瓦の落下や道路の陥没や段差などが生じました。</b> <b>電気、水道、都市ガスなどのライフラインが停止しました。</b> <b>第二中学校や高館小学校では、仮設住宅ができるまで沿岸部の被災者を受け入れました。</b>



9・22 集中豪雨



東日本大震災

## ●東日本大震災における高館地区の対応

### (1) 町内会・自主防災組織の活動

揺れが収まると役員が集まり、次のような活動を行いました。

- ・町内の点検、安否確認。若い人は不在が多く、夜に安否確認を行いました。
- ・公園など地域の一時避難場所に避難しました。
- ・発電機で照明を確保し、炊出し等を実施しました。
- ・消防団と連携し、屋根瓦が落ちてきている家をブルーシートで養生しました。
- ・第二中学校や高館小学校へ支援しました（野菜類の食料提供、ボランティア活動）。

### (2) 高館地区で苦労したこと

- ・停電で情報入手ができなくなりました。
- ・電話が不通で家族と連絡がとれず、渋滞や交通機関の停止もあり、安否確認に時間がかかりました。
- ・石油ストーブやプロパンガスが重宝しました。
- ・断水や物流の停止により、水や食料、燃料の確保に苦労しました。

### (3) 震災後の意識の変化

非常持出品や災害備蓄品を準備する人、石油ストーブを準備する人が増えました。

自主防災組織では、東日本大震災の教訓から防災資機材を購入し、積極的に訓練や防災意識の啓発（災害を甘く見ない。水や食料を用意するなど）を行う組織がありました。

一方、震災の記憶が風化し、訓練参加者が減少したという声もありました。

※ これからは、震災の記憶や教訓を風化させない取組が大切になります。

## 4 高館地区の災害対応計画

### 地区で想定する災害

- ・大雨や集中豪雨によるダムの放流、河川や用水路のはん濫と浸水、土砂災害
- ・直下型地震による住宅被害や火災
- ・落雷、竜巻

#### 1 風水害への備え

高館地区では、8・5豪雨や9・22集中豪雨でがけ崩れや道路損壊が発生しています。また、9・22集中豪雨では樽水ダムの放流により低い土地への浸水被害も起こっています。

#### 2 直下型地震への備え

東日本大震災を経験したから「地震はもう大丈夫」と思いがちですが、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震のような直下型地震は、想像を絶する被害をもたらします。

名取市の北には「長町ー利府断層」などがあり、地震への備えも必要です。

## 風水害から命を守るために

### ■対応の基本

- ・ 浸水しない安全な場所に避難する。建物の2階に避難（**垂直避難**）する。
- ・ がけや斜面の近く、浸水しやすい土地の平屋では、早めに避難する。
- ・ 浸水時の避難は、極力避ける。

#### 1 風水害への対応は情報収集から

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻などの風水害は、「大気の状態が非常に不安定になっているとき」に発生します。

テレビ、ラジオなどの情報に注意し、「大気の状態が非常に不安定になっている」場合は、**不要な外出は極力避けましょう。**

また、停電や濁り水などに備え、備蓄品を確認しましょう。



#### 2 安全な場所に避難する

「避難」は市の指定避難所に避難するというイメージがありますが、**河川の増水などにより、公共施設が安全な場所とは限りません。**また、避難途中には、水路への転落や飛来物の直撃などの危険も考えられます。

**がけや斜面の近く、浸水しやすい低地の平屋では、速やかな避難が必要ですが、そうでない場合は、自宅にとどまるほうが安全です。**

国は、避難所への立退き避難のほか、建物の2階に避難する**垂直避難**を推奨しています。

**浸水被害や土砂災害の恐れがある場合には、高館小学校や第二中学校を早めに避難所として開設し、お知らせします。**

#### 3 浸水しやすい低地の平屋、がけや斜面の近くでは、早めに避難する

気象情報や市からの情報に注意し、早めの避難を行いましょ。名取市からの避難勧告等は、**なとらじ (FM80.1MHz)**、エリアメール、テレビのテロップ等でお知らせします。

避難準備情報	非常持出品など避難の準備をお願いします。がけや斜面の近くなど、災害時に支援が必要な方は、早めの避難を心がけましょう。
避難勧告	垂直避難や指定避難所への避難などを呼びかけます。
避難指示	災害の危険性が切迫しているときに発表します。垂直避難や近くの安全な建物への緊急避難などを呼びかけます。

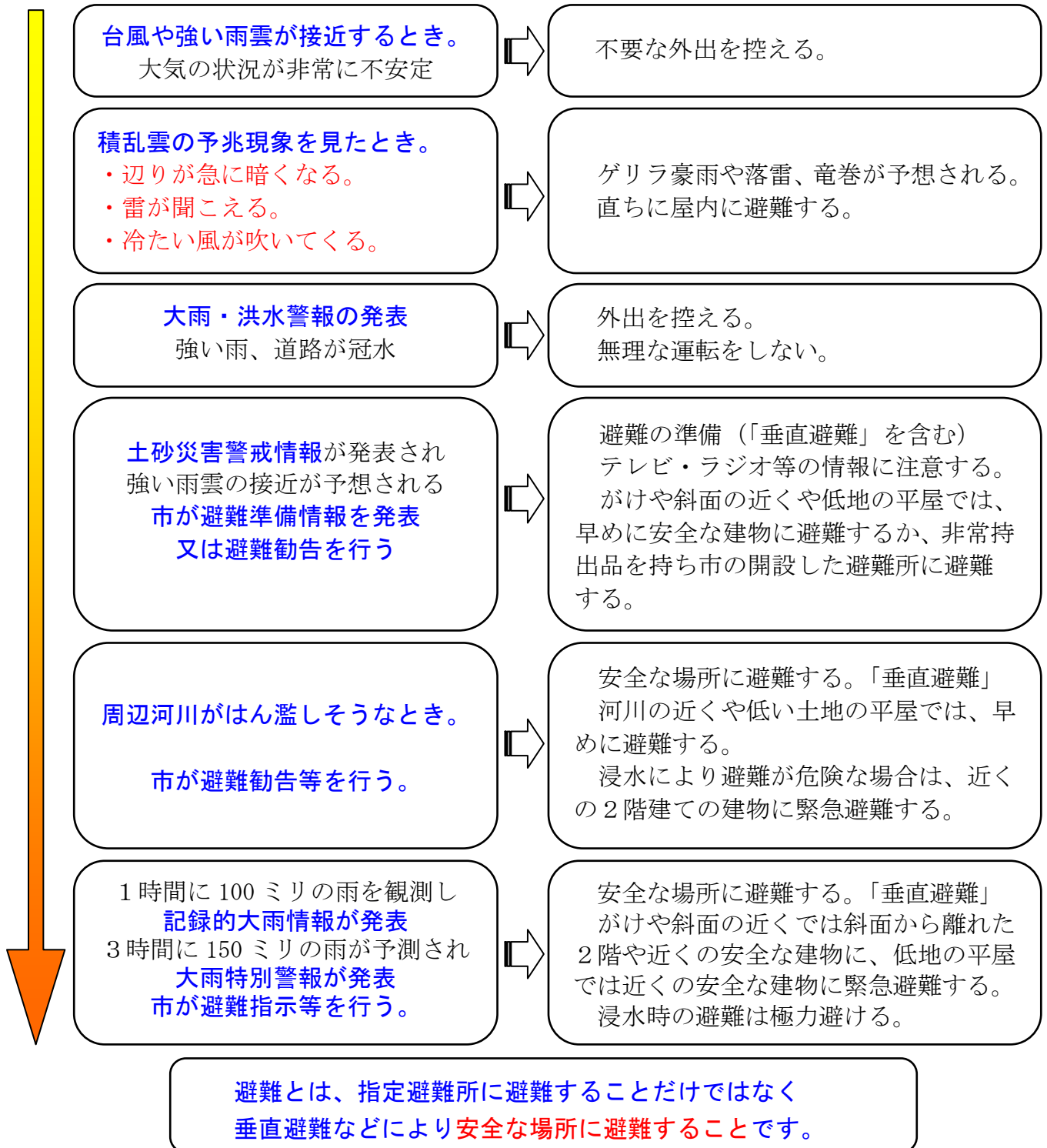
#### ●土砂災害警戒区域・特別警戒区域の指定について

宮城県は、早期避難を促すために、全ての急傾斜地危険箇所や土石流危険箇所などを、5年以内に土砂災害防止法に基づく警戒区域や特別警戒区域に指定する予定です。最新の情報は、県の土砂災害危険箇所図公表システムで確認 (<http://www.dobokugis.pref.miyagi.jp/>)



## ●風水害への対応計画（タイムライン）

土砂災害や落雷などから命を守るため、状況に応じ適切な行動をとりましょう。



### 4 冠水時は、車の運転をしない。

冠水時の車の運転は、路肩の崩落や脱輪、さらには流される危険があります。

地区外にいて道路が冠水している場合は、無理に自宅に戻ろうとしない。



冠水時の運転は危険

## 地震災害時の対応

### ■対応の基本

- ・まず自分と家族の身を守る。
- ・地域の一時避難場所である公園などに避難し、安否確認を行う。
- ・集会所で炊き出しなどを行い、災害時要支援者を支援する。

### 1 個人の対応 ～落ち着いて行動する～

#### (1) 緊急地震速報や揺れを感じたら、自分の身を守る

- ・倒れやすいものから離れ、頭を守る。
- ・火の始末は揺れが収まってから。慌てて外に飛び出さない。
- ・外にいる場合は、ブロック塀や自販機等倒れやすいものから離れ、落下物に注意する。

※ ガラスで怪我をしないよう屋内では、スリッパや靴を履く。



#### (2) 揺れが収まったら、火元の確認、隣近所に声掛け、情報入手

- ・火元や家族の安全を確認する。
  - ・隣近所に声をかけ、お互いの安全を確認する。  
高齢者宅には、積極的に声を掛ける。
  - ・ラジオなどで地震情報を入手する。
- ※ 震源が内陸の場合は、強い余震に警戒する。

なとらじ  
FM  
80.1MHz



防災ラジオ

#### (3) 避難の判断

- ・複数の扉が開かない場合や家屋が倒壊しそうな場合は、指定避難所へ避難する。
- ・不安な場合は、一時避難場所に集まり、余震が収まってから家に戻るようにする。

※ 避難の際は「通電火災」に備えブレーカーを下し、ガスの元栓をしめ、非常持出品を持ちましょう。（「通電火災」とは、停電が復旧した際、暖房器具が再稼動したり、傷ついた電気コードがショートして、地震で散乱したものに引火する現象です。）

長雨が続けている場合は、土砂災害の危険性が高まっています。がけや斜面の近くでは隣近所で声を掛け合い、早めの避難を心がけましょう。

### 2 自主防災組織の対応

自主防災組織では、広報・情報、防火、救出救護、給食給水などの役割を定め、防災資機材を準備し、防災訓練を行っています。災害時には、それらの資機材を活用し、役割分担や活動計画などに基づき、応急対策を行います。



## (1) 安否確認、避難誘導

隣近所の声掛けなどにより安否確認を行いましょう。

家屋等に倒壊の恐れがある場合は、避難場所まで避難誘導を行いましょう。

## (2) 情報収集や情報伝達

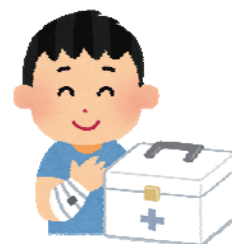
地域を回り被害状況を把握し、役員で情報共有を図り、救助が必要な場合は、市や消防に連絡しましょう。



非常持出品を持って避難

## (3) 初期消火、救出・救護活動

消防などの救助が到着するまで、初期消火や救出・救護活動を行いましょう。なお、余震に注意し、自身の安全を最優先にしましょう。



## (4) 集会所など一時避難所の開設、炊出し

食料や飲料水を持ち、集会所や公園などに避難し、余震が収まるのを待ちましょう。

防災資機材を活用し、炊出しなどを行いましょう。



## (5) 指定避難所の運営協力、災害時要支援者の支援

指定避難所での協力や災害時要支援者の支援を行いましょう。

## 3 高館地区全体の対応

地震により、家屋が倒壊した場合などは、地区全体での対応が必要になります。

### (1) 被害状況の集約

地区全体の情報を公民館に集約しましょう。

公民館には、市と連絡を行うため移動無線とPHS電話が配備されています。

### (2) 地区全体の対応

町内会・自主防災組織の代表などが集まり、給水活動や情報伝達、避難者や災害時要支援者への支援、支援物資の配布等について協力しましょう。

## 4 海の近くでは津波の用心（東日本大震災の教訓）

高館地区の皆さんも沿岸部に行く機会があります。

沿岸部で大きな揺れや長い揺れを感じたら、津波情報を得て直ちに高いところや遠くに避難しましょう。

津波は川を遡上するので、川から離れることも大切です。

※ 東日本大震災では、津波が増田川を遡上し、増田西大橋付近まで自動車が流れてきました。



東日本大震災の増田川

みんなで災害予防活動に取り組みましょう。

### 個人でできること（自助）～自分の命は自分で守る～

#### 1 転倒防止対策の実施

家具類の固定のほか、配置に工夫し、高いところには重い物を置かないようにしましょう。また、タンスや食器棚等のドアが開かないよう防止することも有効です。

#### 2 非常持出品と災害備蓄品の準備

自分で持てる程度の非常持出品を用意するとともに、飲料水や食料、懐中電灯や携帯ラジオ、救急用品などを準備しましょう。



#### 3 災害に対する話し合い、事前の取決め

高館地区防災マップ（11 ページ、12 ページ）を確認し、家族の状況（14 ページ）、我が家の状況（15 ページ）などに書き込んで、家族で確認しましょう。

災害時の対応、避難場所・避難ルート、家族の連絡方法などを決めておきましょう。

#### 4 防災訓練への参加

実際に訓練しないと、いざという時に行動できません。町内会などの防災訓練に参加しましょう。

#### 5 隣近所とのコミュニケーション

災害時、いざいというときに頼りになるのは隣近所の方々です。そのような時お互いに協力できるよう、日頃からコミュニケーションをとりましょう。

### 町内会・自主防災組織でできること（共助）～自分たちの地域は自分たちで守る～

#### 1 自主防災組織について

高館地区の自主防災組織の組織率は87%（市全体は70%）と高く、役割を定め、防災マップの作成や防災資機材の整備、防災訓練や啓発活動等を行っています。

## 2 防災訓練

自主防災組織は、消防署などの指導により訓練方法を学習した後、東日本大震災での教訓を踏まえ、防災訓練を行っています。

- ・ 防災マップによる危険箇所の点検や避難訓練
- ・ 高齢者などの安否確認訓練
- ・ 水消火器を使った初期消火訓練、バケツリレー
- ・ 救急講習、応急手当訓練、防災資機材の操作訓練
- ・ 婦人防火クラブなどによる炊出し訓練
- ・ 市や消防の防災講話、専門家を招いて耐震講座
- ・ 参加者を増やすため芋煮会を兼ねた防災訓練



初期消火訓練

## 3 防災資機材の整備

高館地区の自主防災組織では、次のような防災資機材をそろえています。

防災倉庫、発電機と投光器、救急箱、担架、リヤカー、台車、石油ストーブ、救助用工具（スコップ、ツルハシ、バール、ハンマー）、ヘルメット、テント、炊出し用品（かまど、釜、カセットコンロ、ボンベなど）、広報用品（拡声器、トランシーバー）

## 4 災害時要支援者への支援

市と連携して高齢者などの災害時要支援者への支援方法を検討し、災害時要支援者を確認しておきましょう。

### 高館地区でできること（共助）～地域ぐるみの防災体制をつくる～

町内会・自主防災組織の連絡協議会を設立し、高館公民館を拠点に地区全体で協力できる体制を作りましょう。

### 1 地区防災体制の構築

災害時の地区の活動、連絡体制について事前に定めておきましょう。

### 2 地区防災訓練の実施

避難所となる学校や公民館で防災訓練を実施しましょう。

### 3 地区防災講座・防災研修会の実施

地区防災講座や防災研修を企画し、情報交換を行うことにより自主防災活動のさらなる向上を目指しましょう。

## 6 指定避難所の開設・運営への協力について

### ●東日本大震災時の避難所運営

東日本大震災時の高館地区では、高館公民館が避難所になりました。高館公民館では、ライフラインが復旧するまで、地域の方の支援により避難所を運営しました。

また、第二中学校と高館小学校では、津波で被災した閑上・下増田地区の避難者を受け入れました。避難所では、班を作り役割を定めて避難所を運営しました。

高館地区では、避難所に野菜などの食材を提供したり、ボランティアを行いました。

### 町内会・自主防災組織を中心に、助け合って避難生活を送りましょう

市職員や施設職員、町内会・自主防災組織の役員の指示に従い、協力をお願いします。

#### 1 避難時の注意事項

避難が必要な場合は、電気のブレーカーやガスの元栓を閉め、非常持出品を持って避難しましょう。困っている人には、声をかけ、積極的な支援をお願いします。

#### 2 指定避難所の安全確認、避難所の開設・避難者の収容

市職員や施設職員が建物の安全確認を行い、避難スペースを決定します。

指定避難所では、建物の安全が確認されるまで、なるべく町内会ごとに建物の外で待機し、職員などの指示に従い避難所に入ってください。

#### 3 初期の避難生活 ～避難勧告などが解除されるか、電気・水道の復旧まで～

避難人数の確認、避難者名簿の作成、簡易トイレの設置、市からの食料・物資の配布などについて、協力をお願いします。なお、小中学校と公民館には市の防災倉庫があり、発電機や投光器、簡易トイレなどの備蓄品が配備されています。

#### 4 長期の避難生活

町内会などの単位で班を編成し、避難所自主運営組織を作り、役割分担を定め、避難生活を行います。

避難所では、高齢者や妊産婦などの災害時要支援者を思いやり、女性や子供に配慮してより良い環境を作りましょう。



高館公民館

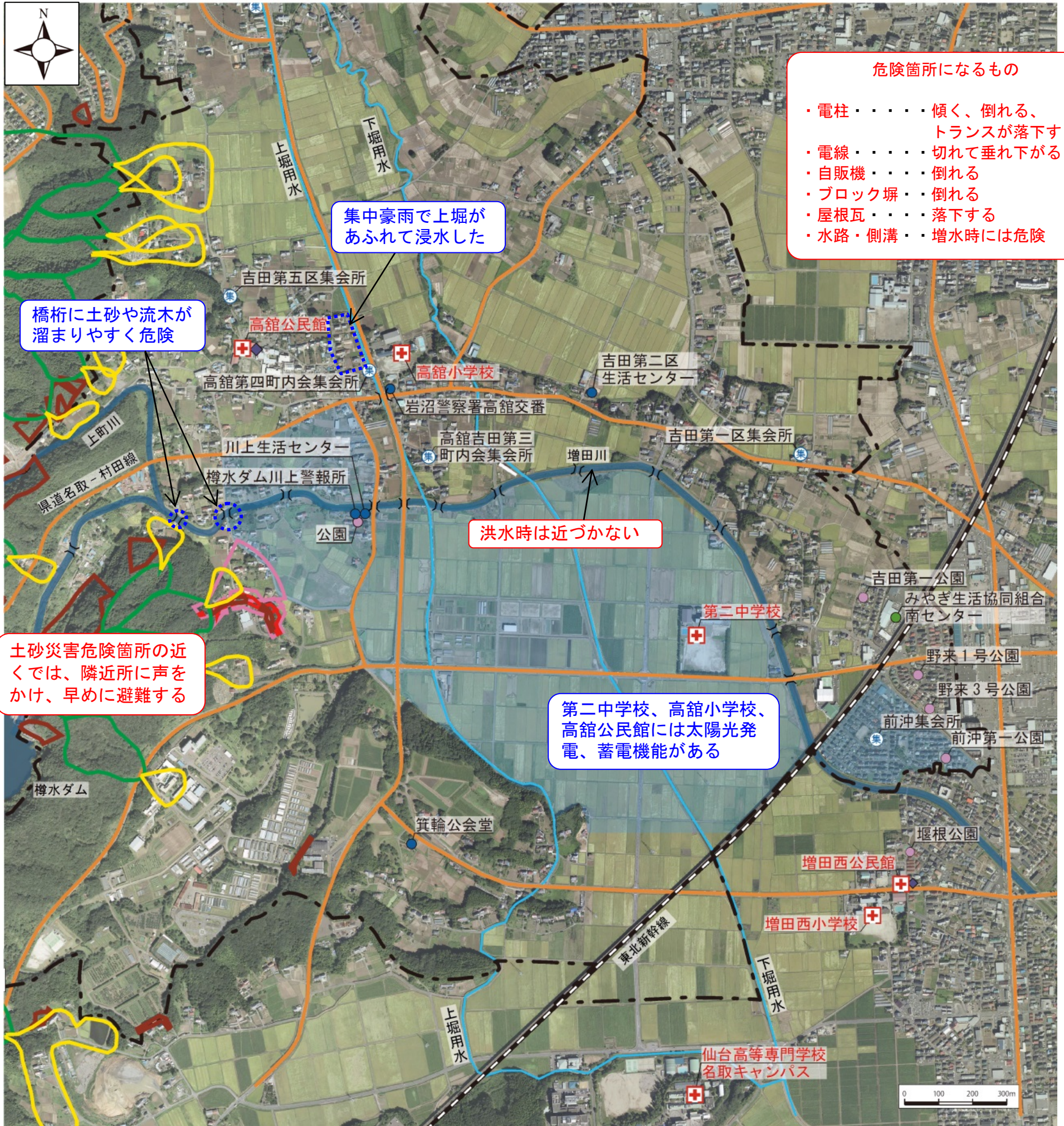
### ●避難所への物資の持ち寄り

救援物資は、発災直後は届きません。市からの支援が届くまで、各自で食料や防寒着、ミルクやオムツ、毛布などを持ち寄ることが重要です。

# 7 高館地区防災マップ

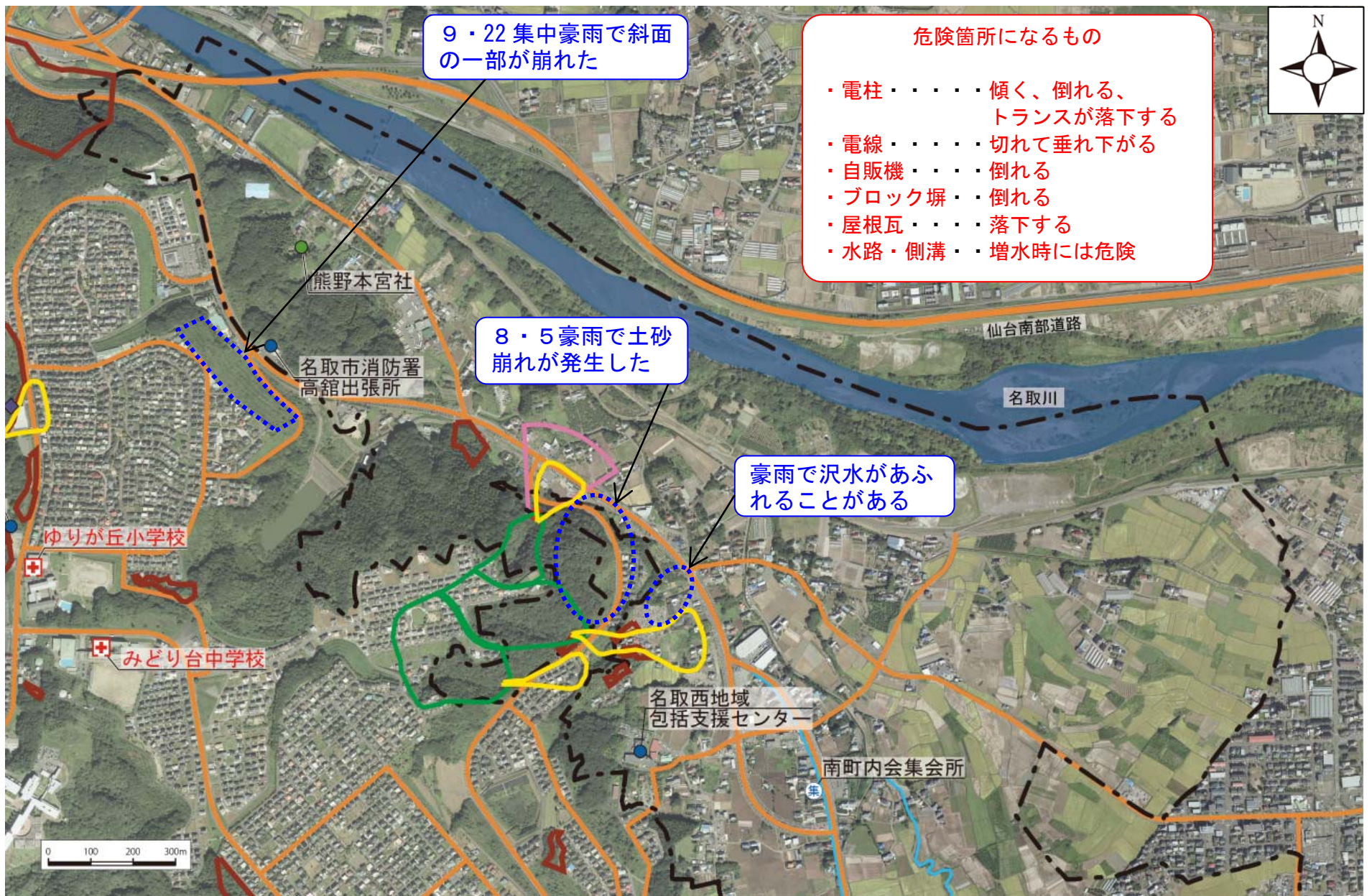
## (1) 吉田樽水ダム地区、野来前沖地区、川上地区

浸水箇所や危険箇所を把握し、安全な避難場所や避難経路を考えておきましょう。



凡 例						
	指定避難所		公共施設		土石流危険溪流	土石流のおそれがある溪流
	防災行政無線		公園		土石流危険区域	土石流の影響が予想される区域
	主な道路		主な民間施設		急傾斜地崩壊危険箇所	がけ崩れのおそれがある、勾配が30度以上で高さ5m以上の斜面で、人家などがある箇所
	河川		集会所		土砂災害特別警戒区域 (平成27年度指定予定)	土砂災害が発生した場合、建物に損壊が生じ、生命や身体に著しい危害が生じる恐れがある区域
	主な用水路		9.22 水害時の浸水範囲		土砂災害警戒区域 (平成27年度指定予定)	土砂災害が発生した場合、生命や身体に危害が生じるおそれがある区域
	橋梁		地区境界線			

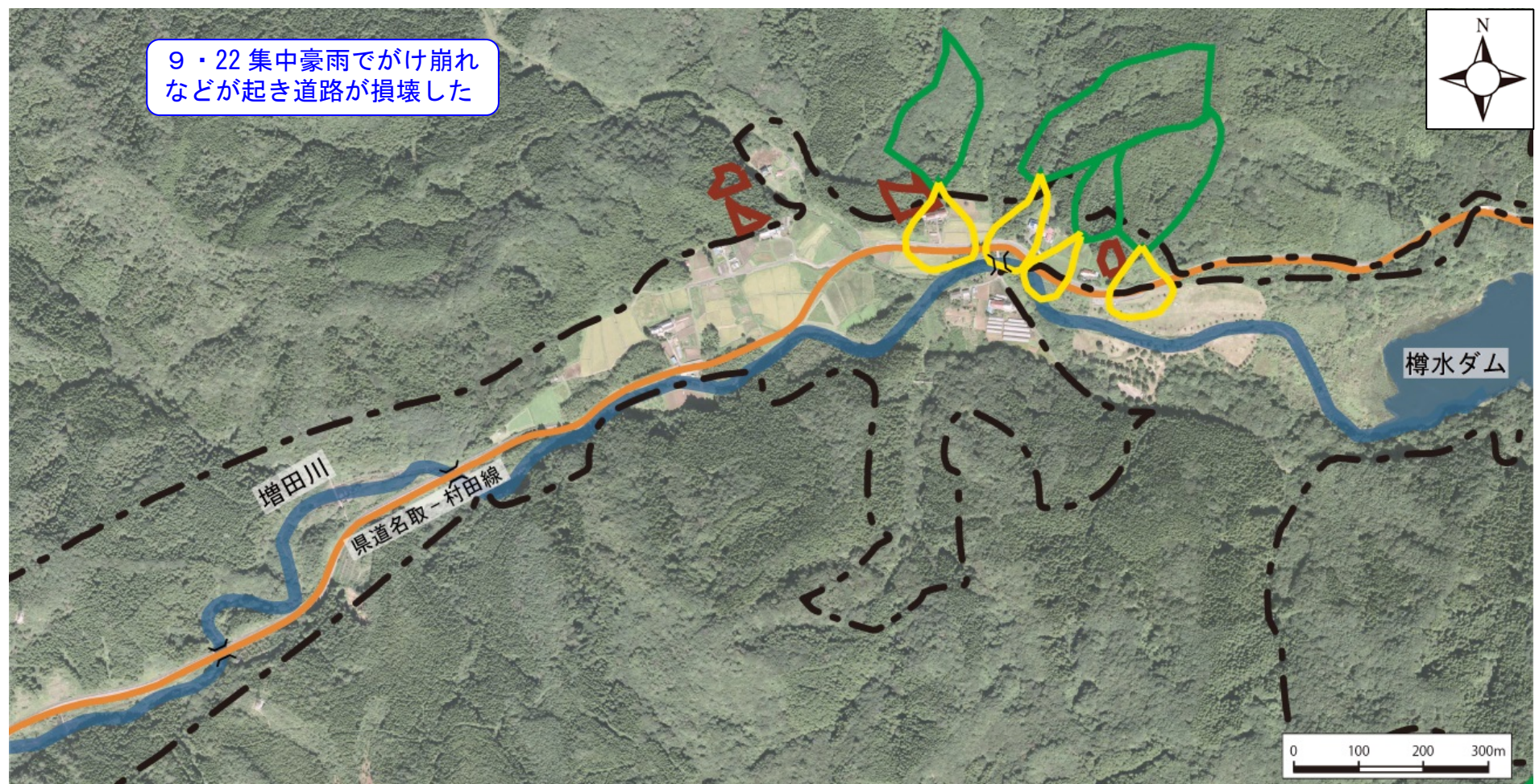
(2) 熊野堂地区



浸水箇所や危険箇所を把握し、安全な避難場所や避難経路を考えておきましょう

土砂災害危険箇所の近くでは、隣近所に声をかけ、早めに避難する

(3) 樽水地区



凡 例					
	指定避難所		公共施設		土石流危険溪流 土石流のおそれがある溪流
	主な道路		主な民間施設		土石流危険区域 土石流の影響が予想される区域
	河川		集会所		急傾斜地崩壊危険箇所 がけ崩れのおそれがある、勾配が30度以上で高さ5m以上の斜面で、人家などがある箇所
	橋梁		地区境界線		土砂災害特別警戒区域 (平成27年度指定予定) 土砂災害が発生した場合、建物に損壊が生じ、生命や身体に著しい危害が生じる恐れがある区域
					土砂災害警戒区域 (平成27年度指定予定) 土砂災害が発生した場合、生命や身体に危害が生じるおそれがある区域

全国で発生した災害から災害時の行動を考えましょう。

災 害	状 況	教 訓
<b>越谷市の竜巻</b> (H25. 9. 2) (風速 50～69m)	発達した積乱雲により竜巻が発生し、長さ 19km、幅 300mにわたり、家屋や屋根が吹き飛ばす、ガラスが飛び散るなどの被害が発生した。	埼玉県で全壊 12 棟、半壊 31 棟、重症 7 人、軽症 56 人⇒ <b>竜巻や積乱雲の前兆現象を見たら屋内に入る。</b>
<b>伊豆大島の土砂災害</b> (H25. 10. 16) (時間雨量 100mm 超)	台風 26 号により、伊豆大島で 1 時間に 100 mm 以上、24 時間で 824 mm の記録的な大雨となり、大規模な土砂災害が発生した。	大島町で、全壊 46 戸、死者・行方不明者 39 人⇒ <b>土砂災害から命を守るためには避難が必要</b>
<b>平成 26 年 2 月の大雪</b> (H26. 2. 14～16) (山梨県で観測史上最大の大雪)	前線を伴った低気圧が発達し、各地で大雪となり、9 県で 26 人が死亡、全国で重症 118 人、軽症 583 人の被害が発生した。120 年間 50cm 以上の雪が積もらなかった山梨県に 100cm 以上の雪が積もった。	死者は、倒壊した車庫等の下敷きで 7 人、屋外で 7 人、車内の一酸化炭素中毒等で 5 人、除雪事故で 4 人、上部からの落雪で 3 人⇒ <b>不要な外出を控える</b>
<b>長野県南木曾町の土砂災害</b> (H26. 7. 9) (時間雨量 80mm)	局地的豪雨により、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報発表前に土砂災害が発生した。白い雨 (80mm 以上の雨) が降ったら、蛇がぬける (土石流が起きる) との石碑があった。	局地的豪雨では、警報が間に合わない場合がある⇒ <b>雨の降り方から自己判断が必要な場合もある。</b>
<b>四国地方の大雨</b> (H26. 7. 7～11) (累計雨量 1, 000mm 超)	台風 11 号と前線により、四国から東海にかけて 600 mm を超える大雨となり、5 県で 6 人が亡くなった。 高知県では累計雨量が 1, 000 mm を超えたが、死者はなかった。	川と海水浴場で 3 人、落雷で 1 人が亡くなった⇒ <b>不要な外出を控える。台風の常襲地帯では、風水害への備えが徹底している。</b>
<b>広島県の土砂災害</b> (H26. 9. 20) (時間雨量 100mm 超)	1 時間に 100mm を超える猛烈な雨により、土砂災害が発生し 74 人が亡くなった。	就寝中に予期せぬ猛烈な雨になることもある⇒ <b>雨音や雷から状況判断が必要</b>
<b>長野県北部地震</b> (H26. 11. 22) (最大震度 6 弱の直下地震)	22 時 8 分頃、長野県北部を震源とする地震が発生。白馬村で建物が全壊し、住民が閉じ込められたが、近隣住民の速やかな救助活動により、全員無事に救出された。	直下地震で建物が倒壊したときなど、 <b>個人の力ではどうしようもないとき、隣近所、町内会などの共助が力を発揮する。</b>
<b>平成 27 年 9 月関東・東北豪雨</b> (H27. 9. 9～9. 11) (累計雨量 500mm、名取市では約 180～250mm)	台風 18 号により、栃木県、茨城県、宮城県に大雨特別警報が発表され、記録的な豪雨となった。 常総市で鬼怒川の堤防が決壊、大崎市で渋井川の堤防が決壊した。	屋外で 5 人、車で 2 人、土砂災害で 1 人が亡くなった⇒ <b>不要な外出は控える。浸水しやすい低地の平屋やがけの近くでは早めの避難</b>

## &lt;家族の状況&gt;

氏名	かかりつけの病院	携帯電話番号
生年月日	持病・常備薬	会社・学校等の名称
血液型		会社・学校等の電話番号
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
年 月 日 型 Rh +・-		
避難場所		
家族の集合場所		



### <我が家の状況>

東日本大震災での状況	家具の転倒	有 ・ 無
9・22集中豪雨の時の状況	床上浸水 ・ 床下浸水 ・ 浸水なし	
建築年	昭和 ・ 平成 年 （ 昭和 56 年より 前 ・ 後 ） ※昭和 56 年以前の建物は耐震診断を受けましょう	
家屋の構造	平屋 ・ 2階以上 / 木造 ・ 軽量鉄骨	
	平屋の場合：浸水時の避難先 [ ]	
自宅の周辺	浸水しやすい地域に	ある ・ ない
	近くにながけや斜面などが	ある ・ ない
	風で飛ばされやすいものが	ある ・ ない
災害時の備え	非常持出品の用意	有 ・ 無
	災害備蓄品の用意	有 ・ 無
	携帯ラジオの用意	有 ・ 無
	消火器の用意	有 ・ 無

### <防災カード>

氏名：	生年 月日	年 月 日生
住所：		
電話番号：	血液型 Rh + ・ -	
家族（保護者）	氏名：	
	電話番号：	
会社・学校等の名称：		
電話番号：		(外側に折る)
かかりつけの病院：		
持病・常備薬：		
その他：		

氏名：	生年 月日	年 月 日生
住所：		
電話番号：	血液型 Rh + ・ -	
家族（保護者）	氏名：	
	電話番号：	
会社・学校等の名称：		
電話番号：		(外側に折る)
かかりつけの病院：		
持病・常備薬：		
その他：		

※コピーしてカバンなどに入れて携帯しましょう

## 高館地区の避難場所

区分	名称	電話番号	備考
指定避難所	高館公民館	022-382-2328	土砂
	高館小学校	022-382-3033	土砂、水害
	第二中学校	022-384-8401	水害
	増田西小学校	022-382-2546	水害
	増田西公民館	022-384-0055	
地域の一時避難場所、 自主防災組織の役員			

※土砂：土砂災害の指定緊急避難場所

平成28年1月現在

※水害：水害の指定緊急避難場所

## 災害時の連絡先

区分	名称	電話番号
市役所	名取市役所	022-384-2111
警察 110	岩沼警察署	0223-22-4341
	岩沼警察署高館交番	022-384-0242
消防 119	名取市消防本部	022-382-0242
名取市休日夜間急患センター		023-384-0001
災害伝言ダイヤル		171

## 親戚・知人などの連絡先

氏名	電話番号	備考

## 名取市総務部防災安全課

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111